

第四幕

[ソラーヤ、カサリア、チェルケスの女達]

カサリア

夜が近づいてくる、あなたの恋人が、
幸福であれ、不幸であれ、貞節であれ、嘘つきであれ、
あなたの手を取って、あるいは手ぶらで、出立せねばならぬ夜が。
すべては近い、非情なまでに。 1025
旅の支度は整っている。兵士達は
軍樂の音にあわせて
出発の近いこと、その喜びを
告げ知らせているのです。
哀れな女達、ひどい運命という
暴君の奴隷となって、 1030
最後の嘆きの声で以って親族に
別れを告げている。女々しい彼らは
女達が連れ去られるのを阻むこともせず、
そなた達を守る代わりに涙を流して別れるのです。
彼らに植え付けられた恐怖はあまりに大きく、 1035
タタール人の武力が有無を言わせないのです。

ソラーヤ

可愛そうな女達、その美しさが
こんな不幸な運命を招いた。
私をどうぞ羨まないでおくれ。あなた方は 1040
親族を失くそうとも、彼らには何も負ってはいないのだから。
彼らはタタール人にあなた方の身を委ね、
愛の神の甘い囁きも、その厳しい仕打ちも
まだ知らぬその心を任せてしまったのですもの。
されど祖国への愛と、恋人への愛が 1045
せめぎあうこの胸のうちに比べればずっと幸福といえるでしょう。
あなた達はタタールの都へ連れて行かれて、
ぬるま湯に浸かった様な日々を過ごすのでしょうか。
汗のお眼鏡にかなうものは幸いだわ。
他の女をやきもきさせて、彼女達が 1050
見たこともないような富さえ気にとめることもせず、
安穩に過ごすのでしょうか。ほとんど知りもしない
薄情な祖国を忘却に付して。
私の運命はそのように平坦ではありえない。
残ろうともとどまろうとも、我が運命は 1055
ひどいものでしか、悲惨なものでしかありえないのです。
お父様にはなんとお伝えして？

カサリア

お父君の
愛の記憶があなた様を苛んでいると。

ソラーヤ

あなた、私の涙を、紅潮を、
この胸の痛みをそのままに伝えてくれて？ 1060
私の涙が、深く苦しみながら
その原因となった愛を償ったと伝えてくれて？
私の胸の内のあるがままを？

カサリア

はい、ソラーヤ様、私の話を聞き終わると満足して
二人のご子息と呼ばれたのです。彼らをともなって 1065
あなた様がよき道をお選びになるのを
見届けに参りたいとのことでした。
愛に惑わされたにしても、
その愚かさに思い至り、
名誉があなたを父上の愛へお返しになることはご存知だったと。 1070
まもなくいらっしやいます。年老いたお父君の
お心にかなうように振舞ってくださいませ。

[カウリン登場]

カウリン

あなたを敬愛する恋人、我が王子には、
あなたさまのお申し付けに従って、
ご決断のほどを伝えました。すなわち、 1075
祖国の快き魅力には勝てず、
セリン様の御意志に反する答えを出されたと。
お父君がいらっしやると聞き及んで、
ご自身もわずかの手勢を率いていらっしやいます。
今お着きになりました。

ソラーヤ

ああ、なんと悲しい人生なの！ 1080

[タタール人の護衛とともにセリン現る]

セリン

娘としての愛情を示す
君の喜びに水を差す非礼を
許しておくれ、ソラーヤ。
反対するつもりはない。君の心を

乱すためにやってきたわけではないのだよ。 1085
祖国へ向けて旅立つに際して、
別れを告げに来ただけなのだ。私の出発は
余りにも長く延び延びになっていた。
君の瞳が、この胸が私を欺いて、
しかるべき義務から私を遠ざけていたのだ。 1090
もはや猶予はならない。
私は発ち、君を忘れる。君も私を忘れて欲しい。

ソラーヤ
カサリア、一体何が起きているの？
セリン様のこの冷淡さが私を苦しめるわ。

セリン
思い起こすことはしまいが、かつて 1095
君の愛すべてを享けたこの身なのに
返事さえいただけないのか？
愛しただけ疎ましいということなのだろう。

ソラーヤ
セリン様、一体どのような返事が出来るでしょうか？
この沈黙はあなたご自身が生み出したもの。 1100
よくご存知のはず、たとえ
その胸から消し去ろうと努めても
忘れ得ないはずですよ（ああ、可哀相な私）、
私の声はあなたの声に従い、
あなたの声のこだまとなって、あれ程までに 1105
熱い思いと愛の嘆きにお応えしましたことを。
けれど今のあなたの言葉は
愛を裏切るものです。セリン様、私には
理解さえ出来ません、その冷淡な仰りよう。
私の心を探るために 1110
愛の駆け引きをなさっているというなら、
ご満悦かしら。そして私を侮辱なさっているのよ。

セリン
ソラーヤよ、これは駆け引きではない。
愛にそのようなものは許されはしないのだから。
君が変わらぬ愛を 1115
保ち続けるのに疲れ果てた、それだけのこと。
祖国は君にとってより大きいのだ。君はここに残る。
私が自分の祖国へ戻るのを咎めないでほしい。
私にも祖国があり、父があるのだ。私から
それを奪うことは出来ない相談というもの。 1120

カウリンよ、我が軍の出発を
予定より二時間早めよ。
さようなら、ソラーヤ、さようなら。

ソラーヤ

そんなに急いで
どこへいらっしゃるといふの、裏切り者。この胸にあなたが
刻み込んだ言葉をそうして 1125
忘却の闇に捨てておしまいになるつもり？
あんなにも誓った愛を
疑心暗鬼に苛まれて捨てておしまいに？

セリン

君の非難こそ愛の駆け引きというもの。だが無駄なこと、
私は行くよ。

ソラーヤ

行く？どこへ行こうといふの、暴君よ？ 1130
何を求めて？誰から逃れようとなさるの、不実な方？
盗みと殺しと拐かしに慣れ親しんだ
野蛮な兵士どもの間に育ったあなたが
生まれた厳酷の大地を求めて？
あなたの中にある野獣を飼いならした 1135
一人の女の愛情から逃れるといふの？
この哀れな女にそのようなことをなさるなら
あなたは高貴な生まれではなく、
育った揺籃は人のものではないのでしょうか。獣の
住まうコーカサスの山すそに 1140
誰かがあなたを産み捨てた。岩の上で
その獣じみた唇が乳を飲んだのは
狼や獅子から、それとも
血に飢えた虎や狡猾な毒蛇から。
さもなくば砂漠の中の海の波が 1145
(そこであなたはセイレンの術を覚えられた)
こんなにも多くの悪を併せ持つ
あなたを恐れて投げ捨てたのでしょうか。
不実な方、あなたの人となりの中には
毒蛇の激しさ、獅子の獰猛さ、 1150
海の移ろいやすさとセイレンの如き
厳しい心、私の涙など
意にも介さず、この嘆きなど
聴こえない冷酷さが一堂に会しているのね。
お行きなさい、不実な野蛮人よ、そのように 1155
固き心と私の純粋な愛は決して結ばれませんもの。

セリン

君を置いて行く私がそのような誹りを受けねばならぬなら、
私を捨てた君も同じ誹りを、
それもより大きな誹りを受けねばならないだろう。
なぜなら私の示した冷淡は君のせいなのだから。 1160

君の手を与えられてこの運命は
幸いなりと信じていたのだ。
この力で以って解決すべきものを
君の判断に委ね、
私の幸福と不幸、私の栄光と悲惨を 1165

君の唇に任せたのだった。
宣告が下されるまでの間
私の手と結ばれたその手を
君の家族が引き離そうとせぬように
兵を結集させもした。 1170
愚かにも彼らが、その怒りを
私に向けぬように。どんな苦しみにも
君の思い出を浮かべては挫けなかったのだ。
愛しい君の姿が、不実のソーラーヤよ、
栄光の道を導いてくれた。 1175

この思いが勝利を収める栄光の道を。
(なんとというおめでたさだろう。)
土埃と血、炎、恐怖と死に
包まれた戦場にあって、愛のために
より盲目となりながらも、私は君に会いたいと願ったのだ。 1180

君の姿が苦しみを和らげてくれた。
これほどの不安の中でも毅然として
今日という日のよき結末を待ち望んだのだ。
この幸いなる手が、
君から数多の勝利を授けられ、そして 1185
君の足元に栄光を差し出すことを。
かくも気高い愛への見返りに
カサリアをやって君が家族に知らせたところでは、
私を捨てる心積もりというではないか。彼らは
集って喜びを口にし、私の耳にまで 1190

その歓喜の声は届いたのだ。
私の不幸で君の家が賞賛を得る声が。
私はやってきた。そして
君の決断に私が反対した時のために
兵を集めていると、君の父が
二人の息子に語るのを聞いた。 1195
それなのに君は私を詰るのだろうか？信じられるだろうか？
私こそ君の弱き心を責めてしかるべきだ。

苦しい拷問にさらされた
この私こそ、この真心で 1200
君の足元に平伏し、天かけて
心正しきこの愛情に伝えてくれと願ってしかるべきだろう。
けれどそうはしないのだ、ソラーヤよ。私の心は
そのような泣き落としはさもないことだと考えるのだ。
これほどの嘆きであれば、男であっても 1205
子供のように涙に暮れましょう。けれど王子には
相応しからぬ卑しきこと。その職分と
育ちにおいて気高き心は
神の如きもの。人の心動かす感情に
陥ることは恥と思うものなのだ。 1210
大いなる疲弊の中では
愛はよく慰めとなろう。
けれどそれが分を超えるならば、
欲望もまた恥ずべきもの。

ソラーヤ
愛をそのようにつまらないものとお考えなのですか？ 1215
君主の心を愛が占めるには
決して至らないとお考えなのでしょうか？
そうなのですか？王の緋衣を身に纏う者は
人間らしさを脱ぎ捨てなくてはならないとでもお考えなのですか？
王道を獣の道を混同しておいでですわ。 1220
人の心が感じやすくなければ、それは別物、
人ではなく獣に成り下がってしまいますわ。

セリン
「はい」か「いいえ」か、それだけだ。私は身を引くことも出来る。
愛から身を引いたとしても
私が君の美しさ、ため息、 1225
嘆き、優しさに屈しただけだったと思わないで欲しい。
喜びが危険に苛まれる今、
君の愛から離れれば誤解もされようが、
私は名誉のために身を引くのだ
これ以上は言うまい。君の思う答えを出して欲しい。 1230

ソラーヤ
いつまでに？

セリン
今すぐに。

ソラーヤ

迷いの恐ろしき深淵に私のあるのが
セリン様、お分かりにならないのでしょうか？この胸が
父と恋人の間に引き裂かれていることをお察しくださらないの？
(愛しているなら、察してくださるはず) 1235

セリン
今、この瞬間に決めて欲しい。
そうすれば、君の前から姿を消すだろう。

ソラーヤ
姿を消すなんて、恐ろしいことを仰るのね。
不実なあなたは、それを口にしても平気でしょうけれど、
私は耳にするだけで、千度も命を落とすような気がします。 1240
その唇は平静でいらっしゃるのに、
この心はそれを聴いて張り裂けそうなのです。
今すぐなんて・・・優しいお父様・・・
何を言えばいいの、何を感じているのかしら、私は。
ため息をつくたびに息が詰まりそう。 1245
分かっているのは、あなたを愛しているということ、それが狂気の沙汰でも。
溢れる愛の前に祖国は屈するのです。
セリン様、私の手を取ってくださいまし。

セリン
その手に口づけよう。

決して心変わらぬ恋人であったように、
君を愛し続ける夫となることを誓って。 1250
我が兵士達よ、ここへ来て礼を捧げるがいい。
お前達の、そして私の姫を称えるがいい。

カウリン
このよき日に、姫様、タタールにとって最高に栄えある
今日の日、心の曇りを脱せられ、
晴れてセリン様の奥方におなりあそばした 1255
あなた様を目にする事の出来た運命に感謝して、
心よりお祝い申し上げます。運命は
あなた様の美しさに恐れ入り、
幸福な日々を永きにわたって守りたまい、
幸運はあなた様の夫君の腕に 1260
しかと捕まえられて、
お二人のめでたき御名は
立派な子々孫々によって末代まで
永久に称えられんことを。

[アドリオ、エラクリオ、カシーロ登場]

アドリオ

これはどうしたことか？私の感覚がおかしくなったのか？ 1265

息子よ、我等は敗れたのだ。

ソラーヤの心は屈したのだ。

カシーロ

ではその首を地に叩き落すまで。

セリン

盲目となった怒りを理性で鎮めよ。

賢くして名高き老人よ、否定はすまい。 1270

娘を失う痛恨、今日この日に

そなたを苦しめて余りあるだろう。

しかし彼女が身の振り方を決め、

何人もそれを妨げないと約したのだ。

そして彼女は答えを出した。兵士達よ、彼女を守れ 1275

家族全員から遠ざけよ。

私とともに我が祖国へ

彼女は赴き、王女として生きるのだ。

アドリオ

セリン、この父を・・・！

エラクリオ

王子よ、この兄は・・・！

カシーロ

タタールの篡奪者よ、獣じみた怪物よ、 1280

姉上を返せ、さもなくばこの腕で・・・！

ソラーヤ

カシーロ、お父様、エラクリオ兄様、恋人よ・・・

セリン

衛兵よ、彼女に指一本触れたものは即座に殺せ。

ソラーヤ、先ほどの愛溢れる言葉を父上に

もう一度聞かせてやるがいい。

ソラーヤ

ああ、愛しいお父様！ 1285

エラクリオ

ああ、何故天はお前の罪に怒り、

雷鳴を轟かせないのか？激しい雷電を以って
その胸を、この宮殿を、世界を
粉碎し消し去らないのか？かくも非情な罪、
これほどの不名誉を見過ごされるのだろうか？ 1290

アドリオ
私を捨てるのか、娘よ？

ソラーヤ
お父様、ああ神様、愛が
罪となりうるとは思いもしませんでした。
けれど私はセリン様に変わらぬ愛を誓った身、
心を翻してはそれこそより大きな罪となりましょう。 [去る]

アドリオ
エラクリオよ、恩知らずのソラーヤが行ってしまった。 1295
彼女を連れ去ったのは獰猛なセリンではない、
自ら望んだことなのだ。あれを
引き止めなかったことが悔やまれる。ああ、カシーロよ

エラクリオ
あれの心に運命を決めさせました。
一体なんと愚かな真似を！ 1330

カシーロ
約束は無効です。なぜなら
彼女の元へ私達がやって来たとき、
セリンはすでにソラーヤと一緒に
いたではありませんか。罪深い
あのタートル人は約束を破ったのです。 1305
その隙を利用して、恋人の囁きで
彼女の心を懐柔したに違いありません。
女の脆さは父上もご存知のはず。

アドリオ
よくぞ言った。一秒たりとも無駄にはすまい。
恋人の腕よりあれを奪い返すのだ。 1310
急げ、カシーロ、あれを連れ去る
街道の城門へ。柱廊に
身を隠した者達が、この不正なる
行いを罰するであろう。
エラクリオ、お前はさらに多くの兵を集めよ。 1315
お前達二人が事を進める間に
私はこの宮殿の部屋という部屋、階段という階段を探し

あの二匹の獣じみた人間を見つけ出そう。
二人は死ななくてはならない。さもなければ私が死ぬのだ。
一人にしてくれ、私は復讐を遂げたいのだ。 [去る] 1320

エラクリオ
父上を一人にしてはならん、まずはその
ゆるやかな足取りを追うこととしよう。かくも
お年を召されて、危険にさらされる
その身を遠ざけねば。

カシーロ
そして父上の望まれたこと、
全力を賭して私達はやり遂げようぞ。 1325

エラクリオ
獰猛なタタール人に襲い掛かるのだ。
奴らが我等の怒りを知っていて、
どのような横暴をも辞さないとしても。

カシーロ
だがまずは誓ってくれ、二人の恋人に
同情は抜きに死を与えることを。 1330

エラクリオ
誓うとも。

[カサリア登場]

カシーロ
どこへ行くのだ？

カサリア
逃げるのでございます。
恐怖に包まれた宮殿は燃えております。
かつては尊敬を集めし宮殿の何もかもが荒廃し、炎上し、血と死が満ちている。
エラクリオ様、かつては崇められし
宮殿の、これがその末路。 1335
いたるところで混乱はますます大きくなり
はぐれたタタール人とチェルケス人は
暗い部屋の中で見分けもつかず
互いに傷つけあっております。
助け出された女達の痛ましい 1340
嘆きの声のいつ果てるともなく聴かれます。
エラクリオ様、走って。お急ぎください、カシーロ様。

エラクリオ

行くぞ、この危機から父上を
お救いするのだ。そして父上がお望みの一撃を
奴らに食らわそう。このような場合 1345
一秒は百年にも値する。

熱意と力と大胆さが必要なのだ。

老齢ゆえに歩みは遅いはず。

天より降り下って

大地を火の海に包み、震撼させる 1350

稲妻は若さ。

戦うのは若き私達だ。

かくも大きな罪に罰を下してくれよう。

愛がチェルケスにもたらした恐怖に

私達の怒りもまた加えよう。 1355

復讐に手を染めるものは勝者となるか

亡骸となって横たわるか、二つに一つ。

カシーロ

厳しさの中に希望を打ちたてよう。

